

田辺中学校・高等学校

実施日時	令和3年 11月 5日(金) 3・4限
参加者	生徒360名、教職員15名、 計375名
実施内容	防災講話、応急担架、救急法、ロープワーク、救助器具体験

ねらい

近い将来予想される南海トラフ地震などの自然災害の発生に備え、防災・減災に関する専門的な知識や技術を習得するための防災スクールを通して、防災への意識を高めるとともに、地域防災の担い手として社会貢献できる人材の育成を図る。

主なプログラム

10:50~10:55

隊員紹介(5分)(教頭先生より)

10:55~11:10

防災講話(15分)

11:15~12:30

防災教育(75分)グループ別

(応急担架、救急法、ロープワーク、救助器具体験)

※装備品展示あり

12:35~12:40

結びのお話

概要

- 1 全体で自衛隊の方から、防災講話を聞く。
- 2 グループに分かれて、応急担架、救急法、ロープワーク、救助器具体験をローテーションで体験する。

参加者感想文

・グループ別の体験ワークでは、ロープワークなど、実際に被災したときにすぐに使える技術を学ぶことができました。知っているのと知らないのとでは大きな違いがあるなと実感しました。実際被災した際には、今回の経験を活かして減災の役に立ちたいと思います。

・自衛隊の方の救助技術の素晴らしさに感動しました。指導もわかりやすく、応急担架の作り方などがわかったので、実際の現場でも役立てたいと思います。ロープワークで知ったロープの結び方は家族にも教えたいです。

成果と課題

【成果】

応急担架、ロープワーク、救助器具体験などは初めて体験する生徒が多く、災害時の大変さを少しでも実感できたという好評であった。また、学んだ知識や技術を実際の場で活かしていきたいという思いを持った生徒も多く、自分たちが主体となって地域で活躍するという意識が芽生えてきたという面で有意義な機会となった。

また、自衛隊の方々は手際よく、生徒達を指導してくださり、感染症対策にも配慮したプログラムを組んで対応してくださった。生徒達も生き生きとして活動に取り組むことができた。

【課題】

今後もコロナ感染防止対策に留意していかなければならない中で、体験活動を取り入れていく際には、事前の検温やマスク着用、こまめな消毒の徹底、ソーシャルディスタンスの確保に努めるなど十分な注意が必要であると感じた。

また、防災に関しては継続的に学習を行い、率先避難者として活動できるよう、また、常に高い意識を持って生活できるよう、これからも活動させる必要がある。

